

令和 2 年 6 月 12 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K01121

研究課題名(和文) 明治期日本における医療情報の伝達と伝達対象による質の変化

研究課題名(英文) Research on the dissemination of medical information in the second half of the 19th century, Japan: focusing on variation of contents according to the recipient

研究代表者

月澤 美代子 (TSUKISAWA, Miyoko)

順天堂大学・医療看護学部・非常勤講師

研究者番号：40311980

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：明治期日本における欧米からの医療情報の伝達と普及の過程を、再編されつつある医療専門職集団と民衆、さらには、医療器具職人のそれぞれの層に目配りしながら同時代史観点のもとに立体的・複合的に後付け直した。具体的には次の3つの面、すなわち、1) 認定産婆教育のための教科書作成にあたってのドイツ語産婆学教科書からの「切り分け」の分析、2) 注射器を検討資料とした、医療器具製作職人への医療情報の伝達と普及過程の検討、3) 医療情報誌をツールとした最新の医薬の導入・普及・評価に関する研究を行い、それぞれ学会、あるいは、普及活動の場で成果を公開し、原著論文として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の医学・医療史研究においては、これまで幕末から明治初期における西欧からの医療情報の導入・紹介に関する充実した先行研究が蓄積されてきた。しかし、医療専門職ばかりでなく一般民衆、伝統的職人層までを視野に入れた医療情報の伝達・普及に関する研究は極めて少ない状況であった。本研究は、従来の医学・医療史研究に新しい研究視点を導入し、視野を広げたばかりでなく、歴史に関心をもつ一般の人々にも医療史に対する新鮮な関心をよび起こすことができた。

研究成果の概要(英文)：In this research project, we investigate the process of dissemination of medical information in the second half of the 19th century, Japan, focusing on the intentional variation of informational contents according to the recipient (such as medical professionals, traditional artisans, or the general public).

This research consists of three parts: 1) a comparative analysis of two textbooks for officially certified midwives (one was translated and published in Japan, and the other was the original version of that book, published in Germany); 2) an investigation of the dissemination of medical information to Japanese artisans of medical instruments; and 3) examinations of the dissemination of information on newly introduced medical drugs from European countries and the mutual clinical estimation of those drugs between the officially certified medical professionals that had just begun to spread throughout Japan at that time.

研究分野：医学・医療史

キーワード：医療情報の伝達 医療情報誌 医療器具 19世紀 医学史 日本 医療専門職 一般民衆

1. 研究開始当初の背景

日本の医学・医療史研究においては、これまで幕末から明治初期における西欧からの医療情報の導入・紹介に関する充実した先行研究が蓄積されてきた。しかし、その際、「医療情報」という概念に関する分析が十分におこなわれることはなく、医療専門職ばかりでなく一般民衆、伝統的職人層までを視野に入れた医療情報の伝達・普及に関する研究は極めて少ない状況であった。本研究は、医療情報の伝達・普及・切り分けに関して、従来の医学史研究に新しい研究視点と視野を導入・普及させる意図をもって行われた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、明治期日本における欧米からの医療情報の導入・普及の過程を、再編されていく医療専門職集団と一般民衆、さらには、伝統的な医療器具職人のそれぞれの層に目配りしながら同時代史観点のもとに立体的・複合的に位置付け直すことにある。具体的には、産科・助産領域、内科・薬学領域の両面から、情報伝達対象による情報内容の切り分け、質の変化の過程を追う。

3. 研究の方法

文献資料の分析と、現地調査によるモノ資料の検討、さらに、仮説に基づく医史学的な検討を組み合わせて研究を進める。

4. 研究成果

(1)～(3)の各領域に関する研究を進め、研究成果は日本医史学会で口頭発表した上で、原著論文として学会誌に掲載した。また、一般向けの講演会等で、研究成果の共有と普及に努めた。

(1) 産科領域における情報の導入・普及・切り分けに関して、次の研究成果をあげた。

① 研究成果発表：原著論文

・月澤美代子、明治初期日本における認定産婆教育の導入—東京府病院刊行『朱氏産婆論』のドイツ語原著 *Lehrbuch der Hebammenkunst* との比較分析と同時代史的背景—, 日本医史学雑誌, 2015:61:373-391.

② 内容紹介と本研究で明らかになった成果

:産婆職は、江戸期には女性を主体とした専門職として日本の各地域において緩やかな徒弟制度のもとで受け継がれ存続してきた。明治維新政府による近代医学採用の宣言に伴って、この産婆職は公的な制度のもとに組み入れられ、1877（明治 10）年、東京府病院における認定産婆教育が開始された。この時、教科書として編纂されたのが、『朱氏産婆論』である。産科医であった山崎元脩（1845-1910）等によって編纂された、この『朱氏産婆論』は、日本各地に配布され、日本の認定産婆教育の基本的な教科書として普及していった。『朱氏産婆論』の原著

は、ドイツ・イエーナ大学の産科学教授であるとともに産婆学校の校長でもあった産科医ベルンハルト・シュルツェ (Bernhard Sigmund Schultze, 1827-1919) の『産婆教科書』(*Lehrbuch der Hebammenkunst*, Leipzig: Verlag von Wilhelm Engelmann, 1870) である。先行研究では、『朱氏産婆論』は、このドイツ語原著の忠実な翻訳書とみなされ、この前提に基づいてさまざまな考察が行われてきた。

本研究は、“*Lehrbuch der Hebammenkunst*” と『朱氏産婆論』との厳密な比較対照に基づく検討を行うことにより、訳者が原著から採用した部分、削除した部分、さらには、改変した部分を明らかにした。これによって、『朱氏産婆論』が訳者を含めた産科医集団たちによって一定の意図のもとに編纂し直された纂訳書であることが明確になった。さらに、この2著をドイツと日本の認定産婆教育をめぐる当該時代の医法政史的な時代状況の中に位置付け、ドイツから日本への近代産婆教育の導入にあたっての「情報の切り分け」の一端を明らかにした。

(2) 医療器具製作における情報の伝達と普及に関して、次の研究成果をあげた。

① 研究成果発表

原著論文：月澤美代子、明治期に日本で製作・使用された皮下注射器—佐藤恒二蒐集注射器の調査と分析—、日本医史学雑誌、2018;64(1)：19-34.

広報誌特集記事：月澤美代子、注射器・コレラ・西南戦争、風媒花、2015/06

月澤美代子、佐倉順天堂病院長ドクトル佐藤恒二の蒐集した注射器、風媒花、2017/06

② 内容紹介と本研究により明らかにされたこと

：明治期の医療情報誌に掲載された臨床報告には、しばしば、「プラワッツ注射器一筒、二筒」といった記述が見られる。しかし、使用されていた注射器の型式・容量が記載されていることはなく、具体的にどのような薬量を使用しての処置が行われていたかは不明であった。また、明治期の医療器具製作職人に関しては先行文献が少なく、医療器具製作職人たちが、どのように最新の医学・医療知識を得たかについては、未知の部分が多かった。

2015年、千葉県佐倉市教育委員会が、明治期に佐倉順天堂病院で使用されていたと思われる、まとまった数の注射器を新たに入手し、この調査を月澤が行うことになった。研究は、資料調査と文献調査の両面から行われ、明治初期日本で製作された皮下注射器1本が特定された。さらに、当時、使用されていたプラワッツ注射器の型式・容量が明らかにされ、臨床実践の具体的な内容を欧米からの情報の導入・解釈・普及を含めて、さらに深く検討する道が開けた。

研究成果は、第118回日本医史学会で口頭発表した後、『日本医史学雑誌』に原著論文として掲載した。この論文では、日本各地での医療器具製作職人と、地域の臨床医、さらには、この両者をつなぐ、医療器具取扱業者の間での医療情報の伝達・普及に関する研究について新たな視座を示し、医療史研究の新分野を拓いた。

なお、佐倉市では、歴史に関心をもつ市民が多く、順天堂記念館など医療史関連の博物館などでのボランティア活動も盛んである。こうしたボランティアの方々を含む一般市民に向けて、佐

倉市の広報誌である『風媒花』に、2015年度、2017年度の2回に渡って研究内容を紹介した他、2018年に国立歴史民俗学博物館で講演を行い、研究内容の普及に努めた。

(3) 医療専門職集団への医療情報の伝達と普及・切り分けに関して、次の研究成果をあげた。

① 研究成果発表：原著論文

(2019月澤) 月澤美代子、1887-90年『順天堂医事研究会報告』における集団的技術評価と医療情報の普及・共有—コカイン局所麻酔を事例として—、日本医史学雑誌、2019;65(1):67-83.

(2020月澤) 月澤美代子、1890-91年帝国日本の医療技術評価—帝大病院・内務省衛生試験所の「ツベルクリン」検証報告を精査する—、日本医史学雑誌、2020;66(1):22-43

② 内容紹介と本研究により明らかにされたこと

: 2本の原著論文、(2019月澤)と(2020月澤)は、それぞれ対になった研究であり、明治20年代日本に西欧から導入された最新の医療知識であるコカイン局所麻酔(2019月澤)と結核の新治療薬「ツベルクリン」(2020月澤)をそれぞれ取り上げ、医療技術評価と医療情報の普及・共有・普及に焦点をあてて分析したものである。

(2019月澤)では、1887-90年に刊行された『順天堂医事研究会報告』を検討資料として、東京府の私立病院であった順天堂の堂主・佐藤進を中心として、日本全国の開業臨床医たちの間で行われたコカイン局所麻酔に関する医療情報の交換、すなわち、情報の伝達・普及と、これに伴って行われた集団的な技術評価を明らかにした。

(2020月澤)では、1890年8月、ドイツ・ベルリンの万国医学会でロベルト・コッホにより報告された結核新治療薬「ツベルクリン」をめぐる医療情報の伝達・普及、さらには、内務省衛生局、帝国大学医科大学で実施された日本で最初の国家主導の医療技術評価を、その歴史的経緯、有効性・副作用に関する検証実験の具体的な内容から明らかにした。

なお、「ツベルクリン」に関しては、現在も、研究継続中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 月澤美代子	4. 巻 66
2. 論文標題 1890-91年帝国日本の医療技術評価 帝大病院・内務省衛生試験所の「ツベルクリン」検証報告を精査する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 22-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 月澤美代子	4. 巻 64
2. 論文標題 複合領域としての医療史 / 医学史 / 科学史	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 403-407
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 月澤美代子	4. 巻 65
2. 論文標題 1887-90年『順天堂医事研究会報告』における集团的技術評価と医療情報の普及・共有 コカイン局所麻酔を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 67-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 月澤美代子	4. 巻 30
2. 論文標題 佐倉順天堂病院長・ドクトル佐藤恒二の蒐集した注射器	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 風媒花	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月澤美代子	4. 巻 64
2. 論文標題 明治期に日本で製作・使用された皮下注射器 佐藤恒二蒐集注射器の調査と分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月澤美代子	4. 巻 29
2. 論文標題 注射器・コレラ・西南戦争	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 風媒花	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月澤美代子、高橋みや子、藤原聡子、佐藤喜根子	4. 巻 61
2. 論文標題 シンポジウム：産科と助産 / 現代の課題と医史学の観点から	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 319-325
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 月澤美代子	4. 巻 61
2. 論文標題 明治初期日本における認定産婆教育の導入 東京府病院刊行『朱氏産婆論』のドイツ語原著"Der Lehrbuch der Hebammenkunst"との比較分析と同時代史的背景	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本医史学雑誌	6. 最初と最後の頁 373-391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 1890-91年帝国日本の「ツベルクリン」臨床実験 「検証報告」を検証する
3. 学会等名 第120回日本医史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 北里伝説の再検討 帝大3教授はコッホに「門前払い」されたのか
3. 学会等名 第121回日本医史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 遺された医療器具が教えてくれること 佐倉順天堂第四代院長・佐藤恒二蒐集注射器の調査と分析
3. 学会等名 佐倉学リレー講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 明治中期日本における医療情報の受容 - 『順天堂医事研究会報告』における集団的評価
3. 学会等名 第119回日本医史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 明治期日本の職人の製作した皮下注射器 佐倉市所蔵・佐藤恒二旧蔵資料から
3. 学会等名 第118回日本医史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 複合領域としての医療史・医学史・科学史、シンポジウム「わたしはなぜ医学史・医療史をまなぶのか」
3. 学会等名 日本医史学会11月例会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 石黒忠恵とリスター防腐法 - 1876年フィラデルフィア万国医学会での体験 -
3. 学会等名 第117回日本医史学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 月澤美代子
2. 発表標題 明治初期日本の民衆への医療情報の普及 大阪・道修町の画作者・松川半山の人体像
3. 学会等名 第116回日本医史学会学術大会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 児玉善仁他編、月澤美代子他担当執筆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 952
3. 書名 大学事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----